

アルゼンチン気候変動への適応能力強化に関する研修について

気象庁は、アルゼンチン海洋・大気研究センターの職員を対象に、気候変動への適応能力強化に関する研修を実施します。当研修は、独立行政法人国際協力機構(JICA)による技術協力プロジェクトの一環として実施されるものです。

気象庁は、平成 20 年 7 月 15 日（火）から 8 月 7 日（木）まで、アルゼンチンで気候変動予測研究を行っている海洋・大気研究センター（CIMA）の職員 3 名（うち 2 名は 7 月 18 日まで）を対象に、気候変動予測データの解析技術の習得等に関する研修を行います。

気象庁気象研究所は、地球シミュレータ（※ 1）を活用した温暖化予測研究プロジェクトである、文部科学省の「21 世紀気候変動予測革新プログラム」の下、「超高解像度全球大気モデル」の開発を行っています。このモデルによる気候変動予測のデータは、これまでの気候変動予測に比べて格段に精緻なもの（※ 2）で、熱帯低気圧や大雨などの極端な気象現象を全地球上で表現することが可能となっています。当データを解析することにより、水資源、農業等の分野における気候変動への適応策を考えるための重要な情報を抽出することが可能になると見込まれることから、当研修では、このデータの解析技術の習得を通じ、アルゼンチンにおける気候変動への適応能力の強化を目指すこととしています。

※ 1 独立行政法人海洋研究開発機構が運用しているスーパーコンピュータ。

※ 2 約 20km 毎に全地球の気温、風、雨量等を計算。これまでの予測は 100～300km 毎。

本件担当：
企画課国際室
電話：03-3212-8341（内線 2268）